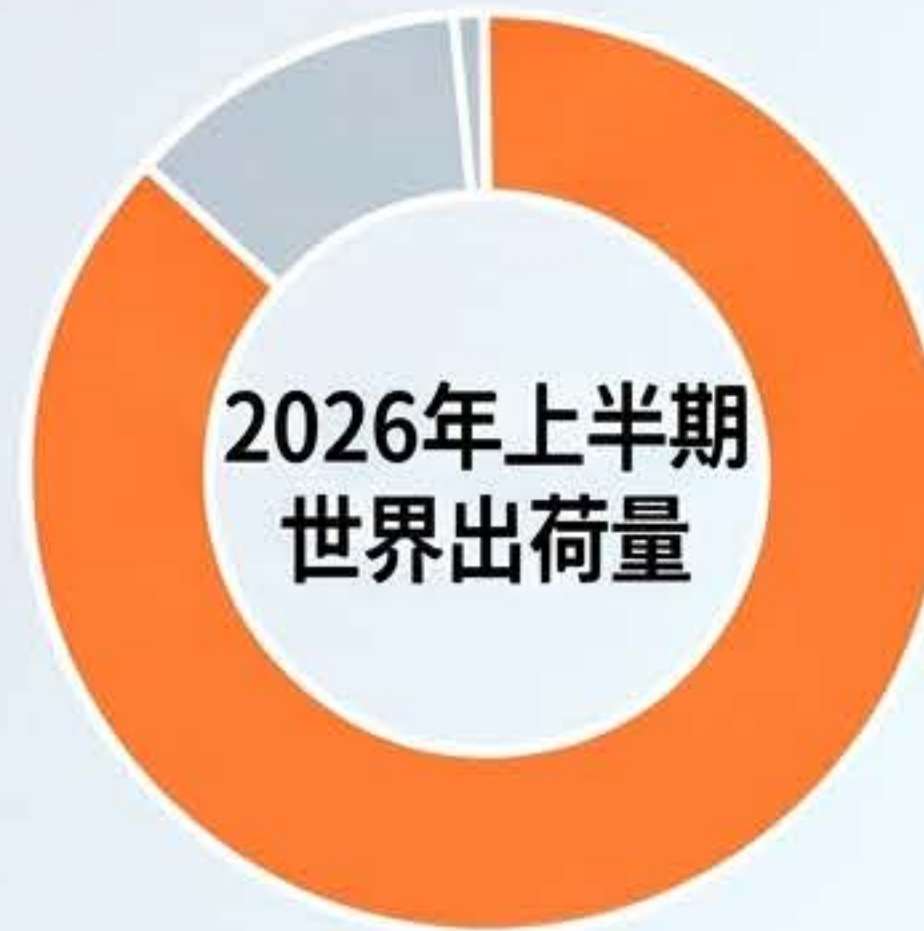
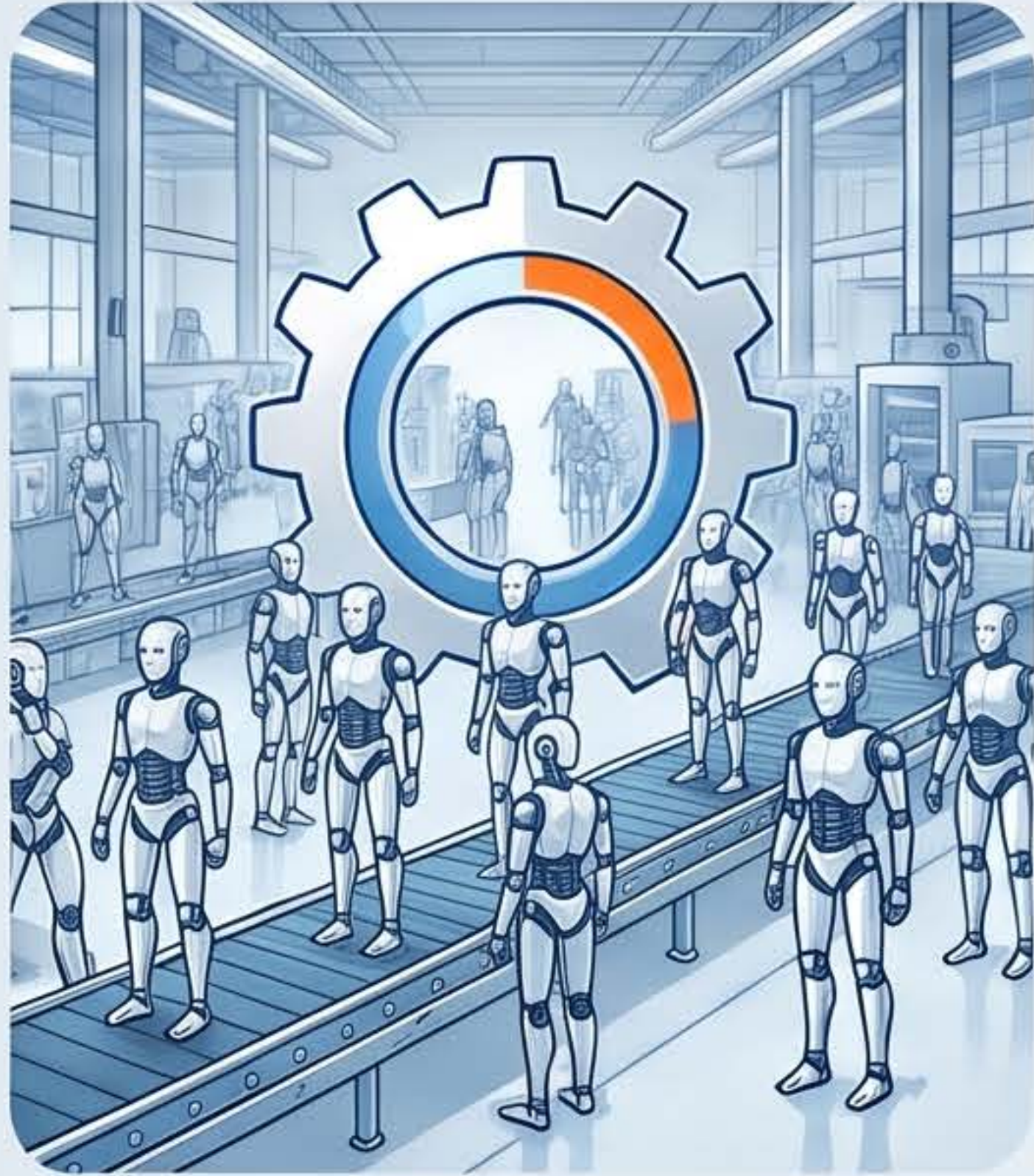


ヒューマノイドロボット産業：日本の勝機と立ち位置（2026年最新分析）

劣勢領域：量産規模とAI基盤の格差

完成品出荷台数の8割超を中国企業が占有



巨額資金と最先端AI基盤モデルで先行する米国



米国Figure社評価額：
\$390億



巨額資金と
AI制御技術で圧倒

勝ち筋領域：部品優位・特定用途・安全規格

精密減速機などボトルネック部品における高い技術力とシェア



ナブテスコ・
ハーモニックドライブ：
過半シェア保持

高稼働現場で強い

モジュール化と特定用途（災害・
高負荷等）への特化・標準化



災害対応
ロボット



重重リフグ
ロボット

国際安全規格（ISO）の策定
を通じて市場を強固にする



主要領域の競争環境と立ち位置（日米中比較）

評価領域	日本	米国	中国
完成品量産	劣勢（試作中心・ 重産ほぼゼロ）	立ち上げ間 （Tesla, Figure等）	圧勝（世界出荷の 8割超を掌握）
重要部品 （減速機等）	優位（市場を寡占も 中国勢が猛追）	一部内製化を推進	急進（日本製より 40～60%安価）
AI・基盤モデル	後発（2026年に 国産事業が始動）	世界最先端 （Physical Intel等）	国家主導でのデータ 収集と国産モデル